

11号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。
ヒゲとパンケーキ! 甘いデザートとの対比が際立つお二人の関係に迫ります。



鯨坂兼充さん(右) デザイナー

P2参照(特集ページをチェック)

iTohen | www.skky.info

福家伸哉さん(左) カメラマン

1985年香川県坂出市生まれ。2005年タケダトオル氏に師事。2011年独立。主に雑誌 広告媒体を中心に活動中。パーソナルワークとして人物写真を中心に制作している。2016年11月iTohenにて写真展開催。

マメイケダさん イラストレーター

イラストレーター/画家として活動。1992年生まれ。島根県出雲市出身。大阪在住。食べたごはんをよく描いている。HBファイルコンペVo.26 副田高行特別賞。ホッケとパンと卵とごはんが好き。くいしんぼう。

ninOval cafe enoco地下1階 営業時間:11:00-18:30 (月曜日定休)

新メニュー「ダッチベイベーパンケーキ」ドイツ生まれアメリカ育ちのダッチベイベーは、シュー生地のようなクレープ生地のようなパンケーキのような不思議な美味しさ。話題のスキレットを使って注文を受けてからオープンで一気に焼き上げます。外はカリッと、中はもちっとした生地に自家製のバニラアイスとレモンが添えられています。選べるハニーソース(メイプル/ベリー/マンゴー)をお好みでかけて召し上がってください。



enokojima creates space
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]

Enokojima Art, Culture and Creative Center,
Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間:10:00~21:00(ただし展示室は11:00~19:00・日曜日は11:00~16:00)

月曜・年末年始休館

電話 06-6441-8050 | FAX:06-6441-8151

メール art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 11 2016年10月発行

|発行|大阪府立江之子島文化芸術創造センター

|編集|高坂玲子・近藤美智子(enoco 企画部門)

|表紙・特集ページデザイン|鯨坂兼充・米須清成(SKKY,Inc)

|撮影|福家伸哉(p.2-p.4) |イラスト(表紙)|マメイケダ

|イラスト(エノケン、似顔絵)|タダユキヒロ

|アートディレクション|後藤哲也(000 Projects)

|デザイン|小池一馬(000 Projects)

「enocoニュースレター」は、enocoが年4回発行する情報誌。enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。



[アクセス]

大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、
8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

enoco
11

11号の表紙

デザイン: 鯨坂兼充 & 米須清成 <SKKY,Inc>

イラストレーション: マメイケダ

江之子島文化芸術創造センター/enocoがお送りする「enoco ニュースレター」。表紙と巻頭は、毎月異なる関西のクリエイターたちが担当します。11号の特集は、関西で活動するデザイナー・イラストレーターのみなさんによる座談会。そんな表紙は、愛情いっぱいのお茶碗でんご盛りごはん! 愛情があふれすぎて、お腹パンパンになっちゃうそう!? デザインの世界では、愛情があふれ過ぎるとどうなっちゃうの!? その秘密は特集で...

デザイナーと歩む

enoco × 行政 × デザイナー

enocoではここ数年、各事業の印刷物等でデザイナーの方とお仕事をする機会が増えました。このニュースレターも、毎号異なる関西のクリエイターのみなさんに表紙と特集ページを担当いただいています。

また、これまでも行政課題の解決に取り組んできたenocoでは、公共のデザインがどのように行われているのか、その状況をリサーチすると共に、実際にデザイナーと自治体職員との協働をコーディネートし、そのプロセスと成果を展示する「パブリック・リデザイン」というプロジェクトをこの夏から始めました。

メッセージや情報を正しく効果的に伝えるためには、優れたデザイナーの能力が不可欠ですが、自治体などの発行するデザイン制作物の中には、そうっていないものも多いように思います。公共のデザインの仕事とは、どうあるべきなのでしょう。

今号では「パブリック・リデザイン」のプロジェクトに関わっていただく、関西で活動するデザイナー・イラストレーターの方々と、公共のデザインやデザイナーの仕事について考えます。

「パブリック・リデザイン」プロジェクトメンバー

飾坂 兼充 (あじさか かねみつ)

1971年鹿児島県川内市生まれ。グラフィックデザインを学ぶため、単身で大阪へ。大阪総合デザイン専門学校卒業。後に同校イラストレーションコースへ専任講師として勤務。銅版画、シルクスクリーンを中心に担当。2000年独立。デザイン業務を中心としたSKY Graphicsを設立。2003年にギャラリーを中心とした複合施設となるiTohenを開店。法人化にともないSKKYへ屋号を変更。現在、グラフィックデザインを中心に活動。また作家のサポート及びプロジェクトを併設したiTohenにて行う。

SKKY / iTohen <http://www.skky.info>

池田 敦 (いけだ あつし)

デザイン会社G_GRAPHICS INC. 代表&クリエイティブディレクター。大阪・東京の2拠点で展開するギャラリー&プロダクトレーベル「ondo」の企画運営に加え、贈り物をテーマに各地で開催する、ギフトイベント「つまるもの市」も主催。デザイン会社をベースに、自分たちが大切にしたいと感じるものを選び、編集・デザインし、価値として社会へと届けていきたいと考えている。

G GRAPHICS INC. <http://www.g-graphics.net>
ondo -gallery & product- <http://www.ondo-info.net>

山内 庸資 (やまうち ようすけ)

京都生まれ。神戸・塩屋在住。平面作家として作品を発表しながら、イラストレーターとしても活動中。近年は展覧会の企画・構成や地域事業などにも携わる。

<http://yosuke-yamauchi.org>

タナカ タツヤ

1980年奈良県生まれ。グラフィックデザイナー。制作会社等を経て、2008年からフリーランス。2009年からギャラリー・スペース「hitoto」の運営を開始。ロゴ、ポスター、パンフレット、ウェブなどのデザインを手がける。

<http://www.designsalad.net>

増永 明子 (ますなが あきこ)

京都生まれ。大阪在住。デザイナー。ブランディングを軸にグラフィック、パッケージ、空間等を通じて本質的な解決を目指したコミュニケーションデザインを展開。教育、地域、社会に関わる展覧会やワークショップ、講演多数。国内外のコンペティションにて多数入選・受賞。

<http://www.masdb.jp>

パブリックデザイン



高岡 (enoco) パブリックな空間で目にするデザインについて、どこかみなさんの日常の中で、課題を感じるものや、気になるデザインってありますか？

増永 公共に関わらず、貼り紙や看板が多くなったなあって思いますね。あれしちゃだめ、これしちゃだめ、みたいな「禁止」の貼り紙がここ数年で増えた気がします。

高岡 駅などのサインもそうですね。貼り紙に貼り紙を重ねすぎて、結局どれを見ていいかわからない。

増永 でも、そこが公的機関の基本的な姿勢になっているのかもしれないですね。たとえひとりのクレームでも真に受けて対応してしまうというような。

飾坂 僕は病院と関わる仕事をさせていただくことが多いんですけど、ここ数年に建った病院って、サイン計画はちゃんとされているんです。でも、引渡しが終わった後って、看護師や医師によって空間が作られていくようになるんです。そうなってくると、最初にこういうものがいいですねって意思疎通をはかっていると、だんだんやさしさとか愛が溢れてきて、あっちゃこっちゃ各科でそれぞれ貼り紙や飾りをしていくんです。それが結局、これ置が貼って、何をはずしていいの。愛が溢れているんで、はずせないんですよ。笑

増永 公的機関の文句を言われたいための予防策と、飾坂さんの愛の例で、結果として同じことが起こっているという。溢れすぎただけ愛のほうがいいかな。笑

飾坂 軸は違うんですけど、向かっている方向の統一性がとれていないというのは同じですね。僕がお手伝いしている「NPO法人アーツプロジェクト」では、アートの力をもって、病院などの医療環境をより快適な癒しの空間とすることを目的にしているんですが、そこで関わった病院には、アート専門の職員(アートディレクター)を病院で雇ってもらって、ひとり派遣するんです。そうすると、うまいこといくんですよ。その人が全部やるので。

駅などの公共空間とかも、そうならいいなって思うんですけど。ちゃんと勉強してきた人がひとり専門にいて、ジャッジする。これはうちだけではできないよ、外部に頼みましょうって。なぜなら公共性っていうのかな、そういうものがなきゃだかっって言えるんじゃないかと思うんですけどね。

パブリックな空間にあふれるデザイン

高岡 自治体がどうデザインを進め方をしているのか、リサーチもしているんですけど、神戸市はクリエイティブディレクター制度っていうのを設けているんですよね。自治体にデザイナーの人が雇われています。各部署で手作りでデザインしているのは変わらないので、劇的によくなるっていうのは難しいんですけど。ここをこうしたいんじゃないかと、アドバイスがもらえるんです。

増永 神戸市のフライヤーとかクオリティが年々高くなっていますよね。

池田 神戸市はそういうことに理解があるんですか？

高岡 そうですね。神戸市はユネスコ創造都市ネットワークの「デザイン都市」に認定されたんです。なので、神戸はデザインに対して意識を高めていこうっていう動きはありますね。KIITO(デザイン・クリエイティブセンター神戸)の存在も大きいんです。

増永 神戸市も、随分と時間がかかりましたよね(神戸市の認定は2008年)。さっき飾坂さんもおっしゃってましたが、やっぱりその場所にアートディレクターなり、デザイン・アートの目線で統一して決定や監修、客観視ができる人がいるのは大きいかなって気がします。

高岡 増永さんは、enocoの企画で大阪市西区役所など行政との仕事を何度か一緒にやってもらいましたが、どうですか？

増永 相手の担当者は、本当に奇跡なぐらいずっと同じ方なんです。その方がいらっしゃるっていうのは、すごく大きいですね。民間のブランディングでも最低3年以上はかかるので担当者がコロコロ変わっていたら関係性もつくれず持続できません。行政の構造上の問題でもありますけど、やはり単年で事業を終わらせたり、短期間の人事異動では事業も人の関係も構築できないな、と常々思います。



高岡 鮭坂さんは、行政の仕事ってどういう対応をしているんですか？

鮭坂 「できれば打ち合わせの回数増やしてください」って言うんです。最初打ち合わせするときに「ちょっとめんどくさいこと言いますけど〜」って。じゃないとねえ。僕も、効率的に進めたい時も当然あるんですけど、簡単に捨てられてしまうものだけは作りたくないって意識はあるので。みなさんそうだと思うんですけど、一生懸命つくったものなので。そういうのは気をつけながらやっているつもりです。

高岡 山内さんはどうですか？今回、イラストレーターって別の立場で関わってもらいますが、こんなことができたとか。

山内 そうですね。行政でよく気になるのは、フリー素材のイラストをめちゃ使っているんですね。半生可にまあいいんで、使うのはすごくわかるんですけど。笑

それに、どこもかしこもゆるキャラアニメか、みたいになってるじゃないですか。それがすごくもったいないなあって思いますね。イラストを制作する時に、僕は表情だったり、どういうタッチだったとか、そういうことを考えたりするんです。すごく細かなニュアンスですけど、そこがすごく大事なんです。



増永 やはり半年でそのツールが使われなくても、行政の方々に何かマインドを残してつなげていけたらいいなあって思います。ちょっとデザイナーに相談してみようかなって意識が生まれたり、デザイナーに頼めないのだとしたら、どうしようかっていうことをちゃんと考えたりとか。今回のプロジェクトを通して、問題意識が生まれたら一番いいのかなって思う。それも、わたしたちのコミュニケーションデザインのひとつだと思うので。

高岡 タナカさんは、どうですか？

タナカ やっぱり行政の仕事はなかなかやる機会がないので、こういうことをやるのかなっていう興味があります。どうなればいいのかってところで、最初の話で、駅の貼り紙が多いって話がありましたけど、やっぱり加えていくデザインが求められているように感じます。それをうまく足したり引いたりして、情報を整理することで、納得してもらえデザインを作れたらいいのかなって。



関西で働くことの強みって？

高岡 基本加えていく側にいるんですね。一枚のポスターを決めるにしても、ほんとにたくさんの人が関わるので。さっきのリスクの話もそうですよね。すべての情報を全部いれるっていうか。その時に、これはいらないでしよって話が必要になってくる。

今回の「パブリック・リデザイン」のプロジェクトでは、行政の人たちに、デザインってこういうことだっていうのを少しでも分かってもらえたらっていうのはあるんですけど、同時に、デザイナーのみなさんにも行政ってこういう風に仕事を進めるんだっていうのを、学んでいただく機会にもしたいというのが一方ではあるんです。民間の仕事と違うところがたくさんあるので、そういうのを経験として身につけていただけたらと。

池田 僕も今、行政の仕事にお声がけいただいて、「パブリック・リデザイン」のプロジェクトもそうですけど、自分たちができることってなんだろうなとか、デザイナーができる社会的意義とか、その辺は探っていきたいなあって思っています。



高岡 話題が変わりますが、関西でデザインの仕事をすることについては、どう捉えていますか？みなさん関西にとどまりつつ、東京の仕事もされているじゃないですか。東京に拠点を移そうとは思わないですか？

増永 思うこともありますが、なんかちょっと息苦しいなあって思っちゃうんですね。関西の方が無理せずのびのびと仕事ができるのかなって。

高岡 それはなんの違和ですか？

増永 日々のコスト管理でいうと、家賃ひとつとっても全然違うじゃないですか。そこに追われて仕事をするのは精神的によくないなあと。コミュニケーションが重要な仕事なので、ある程度ほどよい都会でやってくれる方がいいのかなって思います。大阪の規模はそういう意味ではいい塩梅な気がしていて、特に行政とクリエイターとの関わりについては東京ではできない関係性が構築できるのでは、と思います。

高岡 山内さんも仕事としては、東京の仕事の方が多かったりするんですか？

山内 今ちょうどいいバランスで、東京、関西、あとそれ以外の地域があります。東京に行ってしまうと、バランスが崩れてしまいそうですね。

高岡 東京の比率があがってしまうと？

山内 絶対あがると思うし、広告物が多くなると思うんですね。どっちかっていうと、僕は広告物の仕事がそんなに多くなくて、地域の仕事が多いです。さっき増永さんがおっしゃっていた、ゆっくりしたスタンスで、時間をかけてひとつの仕事に取り組むっていうのがすごく大事だと思って。今、日本の仕事を取りに、海外のクリエイターとかが日本にやって来たりしますが、逆も然りで、関西にいるんだしたら、東京も地域のひとつとして捉えて、海外にも仕事を取りに行くっていう方が健全なんじゃないかなって。

池田 ここ最近、台湾で企画展示をやらせていただいていたので、3回ぐらい往復しているんですけど、東京に行くよりも台北に行く方が、距離的にも時間的にも近いんじゃないかなって感じがしています。実際、マーケットとしてはまだまだだなんて思うので、やり方は考えなくちゃいけないなって思うんですけど。でもやっぱり東京だけを見るんじゃないって、海外も含めてフラットに捉えていく方がいいのかなって気がします。そのへんも柔軟に考えていただけたらいいなあって思いますよね。

山内 関西の方がアジアに近いですね。

高岡 タナカさんは、大阪に拠点を構えている意味ってのは？

タナカ 関西圏で暮らしていたからって感じですね。東京で生まれたら、東京で働いていたんだろうなって。

座談会で話にでてきた神戸市の「クリエイティブディレクター制度」って??

神戸市企画調整局創造都市推進部
デザイン都市推進担当 尾崎有輝係長にお話を聞く

神戸市では、2015年6月より「神戸市クリエイティブディレクター制度」を導入。行政のデザインの基礎力を上げるとともに、デザインの力で景観や産業振興、まちづくりやシティ・プロモーションなど、様々な行政課題の解決に共に取り組むクリエイターを、「クリエイティブディレクター」として公募(最長3年任期)しました。現在、クリエイティブディレクターとして活動しているのは山版佳彦さん。そんな山版さんは、週4日神戸市役所に通い、市役所の職員が制作するデザイン物について日々相談を受け付けています。毎日多くの相談が持ち込まれ、広報部局やまちづくり、保健福祉系からの相談が多いとのこと。また職員教育として、年に数回、神戸市の職員の方に向けて、山版さんがデザインについてレクチャーを実施します。そこでは「デザインするうえで大切なことは何か」という理念、デザインのリテラシーを共有します。その他、デザイン政策の企画・立案、コンペの審査なども行うそうです。



これからの課題

職員の方の相談について、具体的なデザインの指摘に偏りがちで、そこからデザインの考え方を身につけるところまで発展していくのが課題。どのような媒体を用いるのがよいか、どんな戦略を立てるべきか？などの観点も職員に考えてもらいたいとのこと。

リサーチした情報も「パブリック・リデザイン」でご覧いただけます！詳細についてはP8をチェック！





これからのイベント情報

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。

enocoのそうだん[eno so done!] 2016 デザイン相談会



様々な社会課題に取り組む行政職員や民間団体、まちづくり活動に関わる市民が抱える悩みや問題に対して、アドバイスやヒント、情報の提供などを行い、それぞれの活動をサポートする「enocoのそうだん[eno so done!]」。

第3回相談会を12月13日から25日の会期で予定している「パブリック・リデザイン」展の開催に合わせて行います。今回の相談会は、「パブリック・リデザイン」展協力デザイナーの方々がアドバイザーとして、行政などが取り組む事業やイベントのPRで制作するチラシやポスターなどの広報物を実際に手にしながらコメント・アドバイスをを行います。広報物をつくる上での大切なデザインのコツ、考え方などを知ってもらい、デザインが生み出す効果やデザインに対する理解を深める機会です。

事業を組み立てる人、広報を担う人がデザイナーの考えや視点を知る事で、広報物の制作やPRへの取り組み方に変化が生まれるはずです。この機会を活かして皆さんの取り組みに役立ててください。

—
日程 | 2016年12月13日(火)～25日(日)
(※「パブリック・リデザイン」展会期内に開催)
会場 | enoco 4F ルーム1
参加費 | 無料

※アドバイザーの滞在スケジュール、開催の詳細は11月上旬にenoco HP等でのお知らせを予定しています。

大学間連携プラットフォーム形成支援事業2016 大阪・関西での「滞在」を考える 最終講評会



4回目となる今年のテーマは、大阪・関西での「滞在」を考える ～観光・定住促進の切り札とは?～。このプロジェクトは、観光や定住促進の基本となる「滞在」にフォーカスし、関西圏の大学が連携して社会に提案するものです。

例えば観光目的で大阪・関西に「滞在」してもらうための仕掛けや、大学で学ぶ学生や仕事で訪れた社会人など今「滞在」している人々たちを、大阪・関西から捉えて離さない「定住」までを見据えた仕掛けなど、これまでにないエッジのきいた提案が20グループ程度から発表予定です。

なおこの取り組みは、大阪や関西を中心とした様々な大学の演習課題やゼミ研究における膨大な知識や情報を、行政や地域の課題解決に活かすことで、それらを社会のためにより意義あるものとし、行政や地域、そして企業に対しても様々なメリットを共有していくものです。

最終講評会では、講評とともに、シンポジウムや表彰、懇親会も予定しています。ぜひご来場下さい。

—
日時 | 2016年10月22日(土)
10:00～12:10
会場を3つに分けて最終講評会
13:10～16:55
選抜6グループのプレゼン・シンポジウム
17:10～19:40
表彰式・懇親会(行政・企業・大学・学生など出席)

会場 | enoco 4F ルーム1
主催 | 大阪府、江之子島文化芸術創造センター(enoco)
参加費 | 無料(申込不要)

「読書&食欲の秋」特集 えのこdeマルシェ



enocoの季節恒例イベント「えのこdeマルシェ」。秋も深まる11月に開催決定! 今回の特集テーマは「読書の秋」、「食欲の秋」です。

テーマにちなんだ食にまつわる本や雑誌。秋の長夜にぴったりな、古書店店長たちによる特選雑誌や絵本やアートブックなどが勢ぞろいします。更に今回は、enocoともご縁の深い「BMC(ビルマニアカフェ)」の新刊リリースに合わせた特別出店や、初出店の古書店も予定。また、いつも大人気のカレーやタコスのキッチンカーや焼きたてパンなど、たくさんの美味しいご飯の屋台がずらりと並びますので、どちらもお楽しみに。

—
日時 | 2016年11月23日(水・祝日) 11:00～17:00
会場 | enoco 屋外駐車場
入場無料 / 小雨決行
※同時開催「えのこ文化祭 vol.2」(P14参照)

[出店店舗(予定)]

■古書
ON THE BOOKS、&S、Berlin Books、町家古本はんのき、古本さくら屋、九龍堂、二宮古書部、マヤルカ古書店、BMC&夜長堂、ほか

■飲食・雑貨
アトリエスタの文化的カフェ、ダイヤメゾン・ダイヤ印、奈良明日香村の野菜市「あすかマルシェ」、旅する屋台 THE○○カレー、ニコノパン、チーズ魂、道頓堀麦酒醸造株式会社、タコス屋台 El calavera、みっちゃんの梅、globe mountain Coffee、ジェラート屋オオジ、清阪terrace、African gazelle、HAPPY GO LUCKY MARKET [Canna Krtec Lotus]、THE SOCKS、カマタ商店、F&m pottery、飯川 雄大、WORKSHOPほか

パブリックスペースが開く、都市の未来 Osaka Creative Forum



社会の問題や行政が抱える課題をクリエイティブに解決し、都市の魅力へとつなげる創造会議「Osaka Creative Forum」。今回は、道路や河川などの公共空間や、広場や公開空地などのオープンスペースが、もっともっと自由になることで、日本の都市は魅力的に生まれ変わる!と主張する3名のパネラーが、刺激的なトークを繰り広げます。

パブリックスペースをどのように開放することで、魅力ある都市の未来はいかにつくられていくか?ムーブメントのつくり方や魅力ある場所がつけられるまでのプロセスなど、各分野の専門家に各自の視点で発言していただきます。

—
日時 | 2016年11月11日(金) 18:30～21:00
会場 | 朝日生命ホール(淀屋橋)
定員 | 300名
資料代 | 500円
事前申込優先
※詳細は10月中旬、プラットフォーム形成支援事業WEB(www.enokojima-art.jp/platform)でお知らせします。

[パネリスト(敬称略)]
山名 清隆(株式会社スコップ 代表)
山崎 亮(studio-L 代表)
忽那 裕樹(enocoプラットフォーム部門チーフディレクター/
株式会社E-DESIGN 代表)

[主催]
大阪府、江之子島文化芸術創造センター(enoco)

月	会期	展覧会名	ルーム
10	4(火) - 9(日)	宇高明 展	[ルーム2]
	4(火) - 9(日)	CIRO MORITAN 2016	[ルーム3]
	4(火) - 9(日)	新槐樹社 大阪支部絵画展	[ルーム4]
	11(火) - 16(日)	イスラエルからのメッセージ〜かみ〜	[ルーム1]
	11(火) - 16(日)	あれから、それから、これから。展	[ルーム2]
	11(火) - 16(日)	好きなひとときを過ごすひとりと展 第2回	[ルーム3]
	11(火) - 16(日)	2016 JRP 日本リアリズム写真集団大阪支部展	[ルーム4]
	18(火) - 23(日)	豊島優佳 個展	[ルーム2]
	18(火) - 23(日)	2016年度 全国彫紙アート展	[ルーム4]
	25(火) - 30(日)	第4回 木版画 & 水彩画 2人展	[ルーム2]
11	25(火) - 30(日)	ベントハウスの会展	[ルーム4]
	1(火) - 6(日)	第14回 国画会大阪作家展	[ルーム1,2,3]
	1(火) - 6(日)	創友会展(第15回)	[ルーム4]
	15(火) - 20(日)	「川向うの街」平野游 作品展	[ルーム2]
	15(火) - 20(日)	金井良碩「山のスケッチ展」	[ルーム3]
	15(火) - 20(日)	大阪府土曜会・趣味の作品展	[ルーム4]
	22(火) - 27(日)	政経文化画人展	[ルーム1]
	22(火) - 27(日)	久田あず紗 個展 -楽しいときもあり、つらいときもあって、今がある-	[ルーム4]
	29(火) - 4(日)	第62回 チャーチル会大阪	[ルーム1]
	29(火) - 4(日)	art 4 smile 2016	[ルーム4]
12	6(火) - 11(日)	嶋田圭吾写真展	[ルーム2]
	13(火) - 25(日)	パブリック・リデザイン	[ルーム1]
	20(火) - 25(日)	李圭培 個展	[ルーム3]

くわしくはホームページをご覧ください <http://www.enokojima-art.jp/>

PICK UP

これからの公共のデザインを考える パブリック・リデザイン



市町村などの公的機関などが日々発行するチラシやポスターなどのデザインに、5名のクリエイターが取り組むプロジェクト。グラフィックデザイナーの藤坂兼充、池田敦、タナカツヤ、増永明子、そしてイラストレーターの山内庸貴が、enocoのコーディネートのもと、行政のデザイン制作に取り組みます。予算と様々な制約のなか、事業の担当職員が自らチラシやポスターをつくる状況には、行政職員も問題を

感じていて、今回のプロジェクトに対しては、予想を遙かに上回る申し込みがありました。今はまさにクリエイターとの制作が進行中。これからのやりとりから果たしてどのようなデザインが生まれるのか。そのプロセスと成果を展示して、公共のデザインのこれからのあり方について、クリエイターと行政が一緒に考えます。会期中にはデザイン相談会とシンポジウムも開催予定。

会期 | 2016年12月13日(火)～12月25日(日) 11:00～19:00 ※月曜休館、最終日は16:00まで
会場 | enoco 4F ルーム1 入場料 | 無料 主催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)

展覧会 & イベントレビュー

大阪府20世紀美術コレクション

須田剋太展 -『街道をゆく』挿絵原画 海外のみちをゆく-

(2016年9月1日～9月18日)

須田剋太による挿絵原画『街道をゆく』の展示は、大阪府の内外で、これまでも繰り返し開催されてきているが、enocoの展示室で本格的に開催されるのは今回が初めてである。ヨーロッパとモンゴルの紀行を描いた作品95点が展示された。

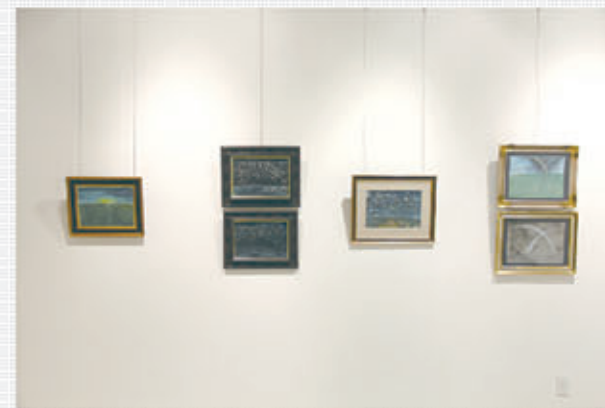
この『街道をゆく』挿絵原画シリーズはもともと、司馬遼太郎が『週刊朝日』に連載した歴史紀行の白黒図版の原画だったので、その作品も当初はモノクロ調が大半であった。しかし、連載を重ねるうちに、いつしか色彩表現豊かな作品や切り紙を貼った作品なども増えて、単なる挿絵というよりも、完成度の高い独立した絵画としての様相を強めていった。今回の展示作品もそうした作品が選ばれている。

会場では、まず須田剋太の自画像に出会う。そして、日本にキリスト教と西洋文化をもたらしたフランシスコ・ザビエルや大航海時代の面影を追った『南蛮のみち』の作品22点が並ぶ。その次は『愛蘭土紀行』の22点。愛蘭土とはアイルランドのこと。実際にはイギリスのロンドンや他の都市の作品も含まれており、夏目漱石ゆかりの下宿や博物館、ビートルズの街も登場する。

そして『オランダ紀行』。これは、須田剋太の最晩年に描かれたシリーズである。1990年、須田は体調を崩し、同年7月に没した。須田の挿絵が途絶えたあとの『オランダ紀行』は、司馬遼太郎が自ら筆をとったスケッチと旅先で同行記者が撮影した写真図版にとって代わり、その後、挿絵画家は、桑野博利、安野光雅へと引き継がれた。

最後の展示室には『モンゴル紀行』が展示された。大阪外国語学校(現在は大阪大学に統合)蒙古語学科出身の司馬遼太郎にとって、モンゴルはいわば憧れの地であったが、須田剋太にとってもまた名作誕生の地とあって差し支えない。圧巻は、『ゴビ日出』『ゴビ砂漠星空』『ゴビ砂漠夕立と虹』など7点が展示された壁面であろう。

『ゴビ砂漠星空』に描かれた夜空満点の星は、須田剋太が2歳の時に、故郷の埼玉県、吹上町で見た“満点の星の光”の造型記憶そのものであった。



中塚宏行
大阪府府民文化都市魅力創造局
文化・スポーツ課/研究員(美術担当)



これまでのイベント

今年も夏夜に「えのこdeマルシェ」が開催！

(2016年8月27日)

8月最後の土曜日に、えのこdeマルシェ「おとなの夜市」が開催されました。いつものマルシェはお昼の時間帯に開催していますが、8月は暑さが厳しい！ということで、夕方から夜にかけて夜市を行いました。会場では、ご飯や冷たいドリンクの屋台、スマートボールや射的・ヨーヨー釣りなどのゲーム屋台が大賑わい。そのほか雑貨やイラストレーターグッズの販売、似顔絵や占いのお店も大人気で、行列ができるほどでした。会場内では「えのこじま凸凹ラジオ」の生放送も行われ、ラジオから流れる怪談話でみんなでひんやりしたり、懐メロDJを楽しむ様子も。

ラストは遊びに来ていた子どもたちが、飛び入りでDJに変身。みんなそれぞれに夕涼みを楽しみ、ゆったりとした空気の流れる夜市となりました。

吉原和音/enoco企画部門



アーティスト・サポート・プログラム enoco [study?] #4 クロストーク&募集説明会

(2016年9月11日)

今年で第4回目を迎えるアーティスト・サポート・プログラム enoco[study?]の、過去入選アーティストを迎えたクロストークが開催されました。この事業は、公募で選ばれたアーティストがenocoで3ヶ月間作品制作を行い、成果発表展を開催します。過去参加アーティストが勢揃いするのは今回が初めて。制作期間中のエピソードや思考の変遷、[study?]後の活動を各アーティストから報告していただき、[study?]#1-3の審査を担当してくださった平田剛志さんも交えクロストークへ。公共施設であるenocoだからこそ実現したチャレンジの話や、[study?]のテーマでもある「社会や他者との関わりを通してアートの可能性を拓くこと」についてのそれぞれの解釈の話。また、アーティストの生活と制作活動のバランスの重要性など、プログラムの良い面と課題の共有も行われました。本当の意味でのサポートとは一体何か。またアーティストはその環境を如何に使いこなすのか。今後も共に「study」していける関係性を築くプログラムとなるよう継続していかなければと、身の引き締まるトークとなりました。

吉原和音/enoco企画部門



enocoのそうだん[eno so done!]2016 第1回相談会

(2016年8月25日/@enoco ライブラリー他)



様々な社会課題に関わる市民や行政職員の悩みに答える「enocoのそうだん[eno so done!]」が今期もスタートしました。

第1回相談会では3名のアドバイザーからマンツーマンで課題を解決するヒントや取り組みに対する効果的なアドバイスが行われました。

当日は地域ブランディングやまちづくり組織の運営、文化芸術振興に関する今後の展開、地域を巻き込む産業活性化への取り組みなどに関する相談が持ち込まれました。

いくつかの相談やアドバイスに共通する視点を見てみると、地域の小さな活動、個人レベルの小さな動き方、既存の事業をうまく活かすきっかけづくりやプラットフォームづくりなどが挙げられます。目指す成果とそこに至るプロセスづくり、そういったプロセスに関わる人たち(ステークホルダー)の発見や育成の難しさ・大切さなどが話に上がり、小さな出来事を考え実行し、魅力として価値を発信していく様々な「実践力」も官民問わず育てるべきものだと感じました。

これらの点は過去の[eno so done!]でのアドバイスにも共通します。

特に行政と市民が関わるような取り組みにおいては、双方の状況などを理解しながら、それぞれの立場や関係性を超えて関わりを深め、目指す未来や成果をいかに共有していくか、ソーシャルデザインの視点がよりいっそう必要ではないかと思えます。

そうした知識や経験をいかに積んでいくか、あるいは伝えていくかということも、enocoが掲げる「課題解決に取り組む拠点」としての役割なのかと、改めて考える機会になりました。

松本拓/enoco企画部門



enocoのスタッフは仲が良いと言ってもらえることが多いのですが、プライベートでもよく遊んだりしています。今年の夏はフェス部なるものを立ち上げ、某音楽フェスに参加。各々お目当てのアーティストを鑑賞し、感度のあまり異なる様子を横目で鑑賞し合う…とても良い夏の思い出です。[アートコーディネーター 吉原和音]



enocoスタッフの名刺には本人の似顔絵(この似顔絵とは別)が載っています。名刺交換の際に貰われることも多いのですが、勤務5年目ともなると加齢により似顔絵と実物が近接してきているのではと若干申し訳なく思います。こちらの似顔絵は実物との差はまだまだないと思っていますが、さていかに。[プログラムディレクター 高橋玲子]



この夏は須田大志展の準備と暑さにやられて夏を満喫出来ず…。その分も秋を楽しみます! 今月はずうっと楽しみにしていた維新派公演が。その他にも手廻り、えのこdeマルシェ、大連堂ワールドカップと仕事もプライベートも楽しみなイベント満載でわくわくしています。[アートコーディネーター 高橋真理子]

enocolumn 11
「今年のおおさかカンヴァス作品は、10月下旬、太陽の塔のもとに集結!」



私が審査員を担当している「おおさかカンヴァス」は、これまで中之島公園や中之島GATE、御堂筋、大阪ビジネスパーク、道頓堀などが舞台でしたが、2016年は万博記念公園の太陽の塔のそばで10/22~30まで開催されます。

西野達さんのような世界的に有名な作家も公募に参加する行政主導のプロジェクトで、それでいて、その選ばれていく作品も美術関係者や専門家だけが知るような作家ではなく、一般の方でも理解しやすいような強い表現が選ばれています。ユーモラスなアイデアを実現させているということにおいても、アートという難関で高尚と思われるところに多くの人を引き込むことができた非常に類例のないアートプロジェクトなんです。規制緩和

も辞さずに都市の中で作品を展開しているということが、大阪という大きな大都市の中で行うことの難しさも乗り越えながら継続してきたという意味で、とても価値があることだと思います。

今回で7年目ですが、「おおさかカンヴァス」出展作家の展開でうれしいのは、2011年に「イッテキマス NIPPON シリーズ“花子”」というパルーンでできた巨大こけしの作品をつくったアーティストのYotta (ヨタ)が、2015年に「岡本太郎現代芸術賞」の岡本太郎賞を受賞して、今年2016年に万博記念公園に帰ってくるという展開がうれしいですね。ラスボスの太陽の塔と作家が大激突する「秋の大阪の陣」的な、ある意味で大阪の最終決戦みたいな舞台です。彼らの作品に挑む姿をぜひご覧ください。

ヤノベ ケンジ

現代美術作家、京都造形芸術大学教授、おおさかカンヴァス審査員。1965年大阪府生まれ。90年初頭より「サヴァイヴァル」をテーマに大型機械彫刻を制作。97年にチェルノブイリを訪問する「アトムスーツ・プロジェクト」を行う。2012年震災復興記念事業「福島ビエンナーレ」参加、「あいちトリエンナーレ2013」にて大規模展示、同年、「瀬戸内国際芸術祭」ではビートたけし氏とのコラボレーション作品等を発表。

おおさかカンヴァス 2016 10/22-30 万博記念公園にて開催 <http://osaka-canvas.jp>

「国民性と国際性」Asia Performing Arts Market in Setouchi 2016

我々日本人もアジア人なのに、意外とアジアのアート事情を知らない。欧米のアート情報にばかり目を奪われているような気がする。これは、全てのアートの世界においてである。

僕がディレクターを務めた「瀬戸内国際芸術祭 APAMS2016」は、アジア12ヶ国から16組の様々なジャンルの国際的パフォーミングアーティストを招聘した初のフェスティバルでありマーケットだ。月曜から木曜は瀬戸内の各島に滞在し、島民とコミュニケーションしながらワークショップやパフォーマンスを行い、金・土曜は高松でパフォーマンスをするといった企画である。アーティストは基本自炊。島での生活の中から何か新しい創作イメージが湧いたら…、逆に島の人には多様な文化を受け入れられるオープンマインドが育ったら…、そんな期待がある反面、不安も隠し

きれずにスタートした。しかし、前半を高松で迎えた瞬間、その不安は消えた。とにかく明るいというか、何だろうね、あのキラキラは。そう、キラキラという言葉が彼らを一番表現している。

これだけのアーティストが一堂に集まるとのフェスティバルは珍しいらしく、参加したアーティストも興奮気味であった。

そして、僕が一番感心したのは、彼らの表現世界には、必ず生まれ育った国の文化という血が流れているということである。コンテンポラリーダンスであっても、それは決して西洋の真似ではなく、それぞれ

の文化を土台とした進化・革新であった。彼らの、キラキラはこの誇り・尊厳から発せられるモノではないだろうか? 違う文化を持つ彼らと時を共にして、改めてナショナルリティの重要性とインターナショナルティの必要性を再認識した。



大阪府 20世紀美術コレクション

1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。
総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介いたします。



「組作品・林の状態」
森口宏一 (1930-2011)
1988年 | 300x1,000x1,000cm
鋼材、ステンレススチール

立体作品を多く手がけた現代美術作家の森口宏一は、1991年に伊丹市立美術館で「近作展'91」と題した個展を開いています。私はその頃大阪で建築を学ぶ大学生で、現代美術に関心はあったものの特に詳しいというわけでもなく、森口宏一という作家の存在も全く知りませんでした。しかし、チラシが何かをみて惹かれたのでしょうか、それまで行ったこともない伊丹の美術館に、足を運んだのでした。何の予備知識もなく入ったホワイトキューブの展示室には、建築現場でよく見る鉄のH型钢やステンレスを組み合わせた作品がところ狭しと並べられ、展示室全体がこの作品のタイトルにある、鉄の「林」のようでした。しかしよく見ていくと各作品には〈タナ〉や〈カベ〉、〈トイレ〉といった名称が与えられ、建築の要素が作家独自のロジックで還元されていることがわかります。《組作品・林の状態》という作品は、改めてみると、超高層ビルが林立する「都市」のようにもみえます。モノとしての鋼材だけでなく、その配置が生みだ

す「空間」を感じて、私はわけもわからず「建築だ!」と興奮したのを覚えています。

その森口作品が、大阪府の主要なコレクションというのも不思議な縁。非常に重たくて、気軽に展示できないのが残念ですが。

高岡 伸一
enoco企画部門



オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス 米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介します。



「幻色日本怪奇漫画図鑑九十九殺 - 恐怖コミック・カバーイラスト選集 -」

1970年代~80年代、オカルト少年・少女を熱狂させた、ホラー漫画の金字塔「ひばり書房」の名作を九十九殺(冊)紹介した1冊です。ひばり書房のホラーは怖いだけじゃありません。毒々しく描かれた異形の者たちの悲劇、どこか間抜けでキツな物語、復讐、因縁、自業自得、様々な人間模様が描かれたヒューマンホラー。どれもこれも読んでみたい!でも紹介されている本は絶版ばかり…。出版社は倒産しているので、著作権とかの問題で復刊も難しいのかな? まあ倒産だけが問題ではなく、現在では差別的な描写が含まれていたりとか。ひばり書房のコレクションを始めるならまずはこの1冊から。手放すときはON THE BOOKSへ是非どうぞ。

ON THE BOOKS
営業時間: 11:00~20:00 (月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中 www.on-the-books.info

米田 雅明
オン・ザ・ブックス店長





9/8~11、フラッグスタジオにてイスラエルを拠点に活躍するダンサーに
よる、本格ダンスワークショップを開催しました。最終日には4日間の成果を、
三味線奏者・坂田淳さんによる生の演奏と共に、観客の前で披露。短期間
で作られたダンスとは思えない出来栄に、ワークショップの内容の濃さを
感じました。[DECOBOCO プログラムディレクター 小池一馬]

DECOBOCOギャザリング#7 「クマグスクと矢津と道具」

「DECOBOCOギャザリング」はユニークな活動している30、
40代のアーティストをゲストに迎え、活動内容、そして、それ
を取り巻く環境について共有するギャザリング・イベント。7回目
となる今回のゲストの矢津吉隆さんは最近では「青森
EARTH2016 根と路」(青森県立美術館)に参加している美術家。
また、矢津さんは「アート」と「ホステル」を合わせた、宿泊型の
アートスペース「クマグスク」の代表としても知られています。
美術を体験するための空間そのものを生み出すプロジェクトで
ある「クマグスク」は瀬戸内国際芸術祭2013でも発表され、
話題となりました。今回のギャザリングでは、矢津さんが最近
気になっているという「道具」について、そして「クマグスク」を
中心とした活動について、話をしてもらう予定です。今回、聞き手
には今年の12月に完成予定のホテル「THE BLEND INN」の
アーティスティック・ディレクションを手がける、詩人の辺口芳典
さんをお迎えして開催します。

日 時: 10月27日(木) 19:30 - (トークは約1時間半を予定)
場 所: フラッグスタジオ
定 員: 40名
料 金: 500円



「yamagusuku / 青森 2016」撮影:大西正一 ©yazuyoshitaka

えのこじま文化祭 vol.2 サイレント〇〇の秋「MUO・ん…」

第2回目となる「えのこじま文化祭」のテーマは、「サイレント(無
音)」。『芸術の秋』『スポーツの秋』という二大「〇〇の秋」をサイ
レントで行います。「芸術の秋」では、音楽フェスを開催。クラ
シックのカルテットやマトリョミン、そしてバンドの演奏を、「えの
こじま凸凹ラジオ」の電波をつかってヘッドフォンで聴くという、
演奏者と聴衆が目の前にいるのに、音は鳴っていないという不
思議な光景を生み出します。「スポーツの秋」では、ラジオ体操
など、ヘッドフォンで指示を聞きながら体を動かす企画が進行
中。もちろん、「食欲の秋」「読書の秋」もカバー。アートユニット
「Yotta(ヨタ)」による焼き芋移動販売車「金時」が、「えのこ
じま園芸部」が奈良県明日香村で収穫してきた芋をつかった焼き
芋を販売。そして、「読書の秋」を満喫するための古書市も「えの
こじまマルシェ」に開きます。静かに熱く盛り上がる江之子島に、
ぜひ遊びにきてください。

「えのこじま文化祭 vol.2」

日 時: 11月23日(水・祝) 15時~18時
場 所: 江之子島2丁目周辺
ライブ: チャンボン・タウン、マングリン・エレクトロニクスなど
※詳細はenokojima.infoをご覧ください



アートユニット「Yotta(ヨタ)」の「金時」(左)
インストバンド「チャンボン・タウン」(右)

トークイベント/旅を聞く Vol.02 「大成哲さんの〜中欧〜チェコ〜東欧〜 ヨーロッパどこでも車中泊の旅」

ゲストの経験した、とびきりの「旅を聞く」トークイベント。
第2回目のゲスト旅人の大成哲さんはチェコ在住9年目の
彫刻家。真っ赤なドイツ車OPEL COMBOに自身の作品や
材料、工具をのせて、ヨーロッパ中を旅しています。「チェコは
『ヨーロッパの心臓』と言われるほど、地理的にヨーロッパの中央
に位置しているので、2時間も車を走らせれば周辺の欧州諸国
へ行けてしまう。車での旅は電車や飛行機では体験できない
出来事、出会いが満載。しかも、旅中になんでも拾って帰ることも
できる!」と大成さんは言います。荷台の大きな車中に寝泊まり
しながら、西へ東へどこへでも行く大成さんの話は、まるで遊牧民
に話を聞いているかのようです。本イベントはトークで1時間半
ほどを予定。ぜひお誘い合わせの上お越しください。

日 時: 11月28日(月) 19:30 -
場 所: フラッグスタジオ
定 員: 40名
料 金: 500円



イベントスケジュール

- | 10月 | 20日 | 極楽茶園/台湾茶教室 |
|-----|----------------------------|----------------------------|
| | | 台湾茶を気軽に楽しむための講座 |
| 27日 | トークイベント DECOBOCOギャザリング#7 | |
| | ゲスト:矢津吉隆さん | |
| | (美術家/kumagusuku代表) | |
| 30日 | ル・ボスケ・フラワーアレンジメント教室 | |
| | パリススタイルのフラワーアレンジメント教室 | |
| 11月 | 17日 | 極楽茶園/台湾茶教室 |
| | | 台湾茶を気軽に楽しむための講座 |
| 23日 | えのこじま文化祭 vol.2 | |
| | サイレント〇〇の秋「MUO・ん…」 | |
| | サイレント音楽祭、古書店、食欲をそそる屋台、 | |
| | サイレント映画、焼き芋、ラジオ体操などを予定 | |
| 27日 | クラウンショー&ヴァレーン体験教室 | |
| | プレジャー企画による楽しいヴァフォーマンスと体験教室 | |
| 12月 | 25日 | クラウンショー&ヴァレーン体験教室 |
| | | プレジャー企画による楽しいヴァフォーマンスと体験教室 |
| 28日 | トークイベント 旅を聞く Vol.02 | |
| | ゲスト:大成哲さん(彫刻家) | |

その他、卓球教室やヨガ教室なども定期的に開催中。
くわしくはFacebookページ、江之子島情報サイト
(www.enokojima.info)をご確認ください。



島子之江

院病生日

FLAG
スタジオ

オジタスクーマ

駅座波阿

enoco